

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

京都府京都市

○学校名

京都市立朱雀第四小学校

○学校のURL

<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=103305>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年2学級、【特別支援学級】2学級、【合計】14学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】267人（平成26年11月19日現在）
（内訳：1年生37人、2年生54人、3年生41人、4年生41人、5年生47人、6年生46人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

愛する心を育み、未来を生き抜く力を育てる
～相手を尊重し、自ら意思決定できる子どもの育成～

【人権教育に関する目標】

（基本方針）21世紀を生き抜くための確かな人権感覚と学力の向上

（目指す子ども像）○自らあいさつができる子ども

○思いやりのある言動ができる子ども

○進んで学習することができる子ども

○人の意見が聞け、自分の意見が言える子ども

○困難なことにも立ち向かうことができる子ども

○ルールが守れる子ども

○人権教育に係る取組一口メモ

自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるように、自分の思いをしっかりと話せるようにする。

○人権教育にかかる取組の全体概要

1 人権教育推進の方向

「人権教育の指導方法の在り方について[第三次とりまとめ]」では、人権教育は、「児童生徒が、発達段階に応じ、人権の意義・内容等について理解するとともに、『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができるようになり、それが、様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにすること」を目標としている。『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができるために必要な人権感覚を身に付けるためには、学校生活の様々な場面において、自分が大切にされていることや、他の人が大切にされていることを実感できるようにすることが肝要である。

とりわけ、教職員同士、児童同士、教職員と児童の間の人間関係や学校・教室の全体としての雰囲気づくりなどは即座に取り組めるものである。自分と他の人の大切さが認められるような環境をつくることを、それぞれの立場で取り組んでいきたい。

本校においても、学校教育目標である「愛する心を育み、未来を生き抜く力を育てる」の「愛する心を育む」部分を人権教育の根幹に据え、相手を思いやるだけでなく、相手を意識し、相手の事を理解したうえで、自分の意見を持ち、より良い解決の方向にもっていくことができるための『確かな人権感覚』を身に付ける。また、互いのきずなが深まるように、自分を愛する、人を愛する心を育てるようにしたい。長年にわたって積み上げてきた人権教育の取組だけでなく、総合育成支援教育（本市における特別支援教育）・外国人教育・国際理解教育・男女平等教育などに加えて、昨今大きく取り上げられているいじめに関する問題や、命や性に関する学習など、あらゆる人権について考える機会を通して、的確に判断して行動できる子供の育成を目指す。

2 『確かな人権感覚』を身に付けるために育てたい資質・能力

本校の掲げる『確かな人権感覚』を身に付けるために、以下に挙げる3点を重点課題と考え、全教職員が同じ意識を持って児童にかかわることが重要であると考える。

- 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような想像力、共感的に理解する力
- 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような、伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能
- 自分の要求を一方的に主張するのではなく建設的な手法により他の人との人間関係を調整する能力及び自他の要求を共に満たせる解決方法を見いだしてそれを実現させる能力やそのための技能

3 具体的な取組

- (1) 思いや考えを伝えるための支援の工夫
児童の発達段階や単元の内容を踏まえ、思考を整理するツールとしてツールミンモデルを活用して授業を行う。
- (2) 教職員のあらゆる人権問題への認識を深める取組
人権教育の成立基盤としての教育・学習環境を充実させるために、教師の人権感覚を磨き、授業力向上を図る。
- (3) 生徒指導と連動した人権感覚向上の取組
児童の人権感覚を育み、お互いを大切にする実践力を養うため、生徒指導の取組と連動させた日常的な活動を充実させる。

3. 特色ある実践事例の内容

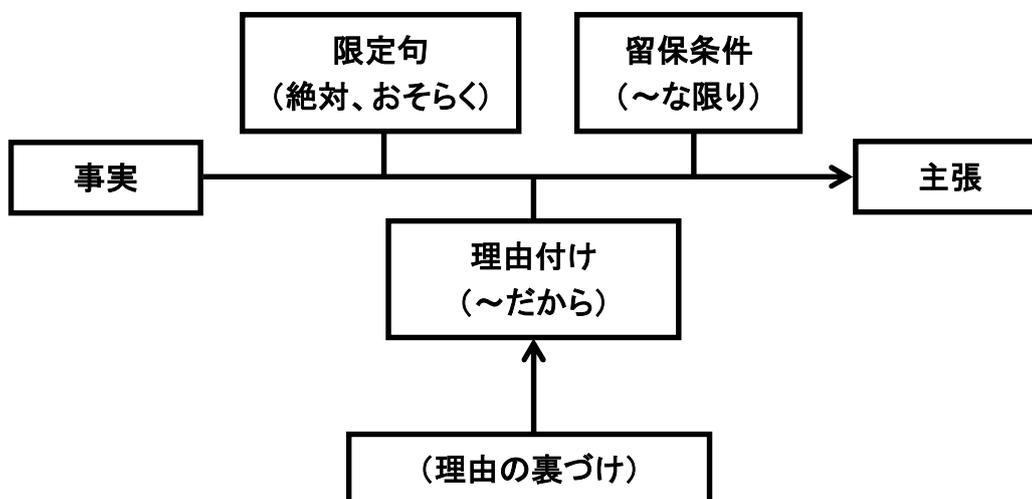
(1) 思いや考えを伝えるための支援の工夫

本校の児童の多くは、とても素直で指示されたことや与えられた課題に最後まで取り組むことができる。その一方で、自主的に行動することや相手に聞こえる声ではっきりと言い切ることに課題が見られる。いわゆる「指示待ち」になってしまったり、どうしたらよいのか、どうしたいのかを決める時に、選択肢を与えられるのを待ったりしてしまう。そのような時に、自らの意志でやるべきこと、言うべきことを決められるような児童を育てたいと考えている。

そこで、「合意形成」という考え方を取り入れた授業の構築を研究の主題に掲げ、自分の考えを整理するために、「ツールミンモデル」という意思決定に用いられるモデル図を参考に行っている。自分の知っていることや、調べた事実を理由をつけて意見を主張し、相手の共感を得られるような条件を提示することで、互いの意見を近づけられるようにしている。

今年度はまず、自分の意見や考えをしっかりと持ち、それを、自信をもって発言する力をつけることを目的に授業の構成を考えた。ワークシートやノート、絵や図に書くことで自分の意見をまとめ、自信をもって伝えられるようになると考えている。

ツールミンモデル



ツールミンモデルとは、自ら調べたことや知っている事実に理由をつけて、自分の意見を主張する。その意見をもって話し合いをする中で、お互いにゆずれる部分を留保条件として提示して、よりよい考えを導き出すための思考ツールである。このモデルをもとに、学年や教科、単元などに合わせて、形を変えて使用している。

6年 道徳のワークシート

①主張
わたしは、お願いに行くべき
ばくは、 だと思えます。

②理由(事実)
・大切な遊び場だから
・仲良しのともちゃんと過ごした思い出の場

③理由(価値)
・町長さんに言う べきだと思うから。
・住民の意見を 聞きたくない。ゴミ処理場をつくる

④条件
① みんな かな、とく いくなら、ゴミ処理場
をつくらないと思う。
ムリだったらあきらめる。
② こうちゃん(家方)がまんでる自然 残す(生き物)
なら空地に、つくてもいい。 遊び場を作ら
ないなら ok

友達の家の近くか、みんなの遊び場所のどちらかにゴミ処理場ができることになったら、どちらを選択するかというモラルジレンマの題材を取り上げた。

自らの価値観を主張して、お互いに条件を提示して話し合う中で、よりよい価値を探った。

4年 総合学習のワークシート

グリーンカーテンに何を植えればいいのか。

調べたこと・していること
風がすく風がとよむ

自分の考え
シカクマメ

理由
夏に風がとよむやすくなる。

友達の考え
アサガオ
アサガオ
アサガオ
アサガオ

自分の考え②
アサガオ

総合学習でグリーンカーテンを育てるときに、どの植物を選択したらよいか、調べたことをもとに自分の考えを発表した。グリーンカーテンの効果を加味して条件を提示し、何を育てるのか決めていった。

特別支援学級 人権学習のワークシート



人権学習で、男女平等をテーマに学習をした。色板を男女のイメージに合わせて、ホワイトボード上で移動させ、なぜそう分けたかの理由を吹き出しに書いて発表した。お互いに感想や意見を言い合うことで、正しい価値にふれることができた。

(2) 教職員のあらゆる人権問題への認識を深める取組

あらゆる人権問題の解決を目指す取組を積極的に推進していくために、教師自身の人権感覚を磨くことが必要である。教職員自身があらゆる人権問題の正しい理解と認識を深め、日頃の教育活動の中で自由と平等、人権の確立・拡大のための主体的な行動を打ち出し、それを推進して実践するように共通理解を図っていくことが大切である。

そこで今年度は、同和問題に関わる単元について、「世界に歩みだした日本」の中の「全国水平社創立宣言文」を取り上げて授業を行うことにした。夏季休業中の研修会で、全教職員を少人数のグループに分けて指導案の作成を行った。各グループに同和問題単元に詳しい教員を配置し、歴史について教えてもらいながら授業の展開を考えた。

実践事例

社会科学習指導案

- 1 日 時 平成26年10月31日(金) 6校時(14:40~15:25)
- 2 学年・組 第6学年2組(21名)
- 3 場 所 6年2組教室
- 4 単 元 名 世界に歩み出した日本
- 5 本時の目標

身分上厳しく差別されてきた人々の思いを振り返り、その人々がどのような思いや願いから全国水平社を創立したのかを考え、今後、差別のない平等な社会をつくるためにどうすればよいのかを考える。

6 本時の展開

学習の流れ	○発問 ・ 予想される児童の反応	○活動への支援 ・ 留意点
○前時の学習を振り返る。	○全国水平社の創立を学習しました。当時の人々はどんな思いでしたか。 ・すべての人を大切にしよう。 ・今まで苦しい差別を受けてきた。 ・差別はなくさなければならない。 ・みんなで立ち上がろう。	○より詳しくこれまでの流れが想起できるように、壁面掲示の年表を利用する。
○宣言文の後半部分を読む。	○水平社宣言文には、後半があります。心に残る言葉はありますか。 ・人間 ・人生の熱と光	○児童から出たキーワードに印をつけ、次の活動で意識できるようにする。

差別のない社会をつくるために、どうすればよいだろうか。

○どうすれば差別のない社会をつくることができるのか考える。

○グループで交流をする。

○全体で交流をする。

○振り返りを書く。

○これから、差別をなくすためにはどうすればよいでしょうか。

- ・人々が協力する世の中
- ・差別ない世の中

- ・なぜなら、同じ人間だから。
- ・一部の人が苦しい生活するのはおかしいと思うから。

- ・そのために、訴える。
- ・演説、集会をする。
- ・憲法をつくる。

○考えたことをグループで交流しましょう。

- ・今まで以上に厳しいきまりが必要だと思う。
- ・きまりをつくっただけでは人々は変わらない。
- ・どうすればみんな行動に移せるのだろう。

○自分の意見やグループで出た意見を発表しましょう。

- ・身分上厳しく差別されてきた人々を議員に選ぶ。
- ・憲法を作る。

全国水平社は、自分たちだけでなく、すべての人間が差別されることのないように願っている。

○振り返りを書きましょう。

- ・すべての人々の幸せを願った宣言を出したことがすごい。
- ・差別は人の心が変わらなければならぬ。
- ・自分も差別に立ち向かえる人になりたい。

○これまでの学習を踏まえて、自分の意見をもてるように、ツールミンモデルを使用し、考えをかくようにする。

○机間指導で、差別のない社会をつくるための、より具体的な案を話し合わせる。

○ツールミン・モデルに沿って話すことで、自分の意見を明確に発表する。

○児童から出た意見に問い返し、児童同士で意見を交わせるようにする。

○児童から出てきた意見を検証する。

○水平社宣言は、「すべての人間」を対象に訴えかけられていることをおさえる。

・差別に対して立ち上がった人々の生き方に対する自分の思いを書くようにする。

(3) 生徒指導と連動した人権感覚向上の取組

あいさつをすることやきまり、時間を守ることなど、人権感覚を養うことにつながる目標を、4月、6月、9月、1月の年4回、低、中、高学年の部会ごとに考えて実践している。

4月を例に挙げると、新学期を迎え、それぞれが新しい学級作りをするときに、友達と力を合わせて自分たちの学級をよりよいものにしていくことをねらいとする。そこから集団の一員として大切な、明るく声をかけ合いコミュニケーションをとることや相手の立場に立って気持ちを考えること、一人一人が自分の役割や責任を果たすことなど、具体的な行動を考えて実践する。

そのほかの具体的な目標としては、以下のような取組が挙げられる。

低学年

「あつまれ ぼかぼか ことば」… 正しい言葉遣いや、優しい表現の仕方を集めて交流し、日常生活で実践する意欲と態度を養う。

中学年

「朝からエンジン全開大作戦」… 朝から気持ちの良いあいさつができるように、滑舌よく大きな声を出す練習をして、元気よく1日のスタートを切れるようにする。

高学年

「朱四校ヒーローあらわる」… 「高学年として」という意識を持つことをねらいとし、感謝してもらえそうな行動や、頼られていると感じられる行動をとれるように、下級生とのかかわりを増やした。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

(1) 思いや考えを伝えるための支援の工夫

小学校の分野では、ほぼ先行研究のない取組であるため、ツールミンモデルをどのような形に変えて活用したらよいか、試行錯誤の連続であった。そこで、大学で「合意形成」やツールミンモデルについて研究されている先生から教えていただき、ワークシートだけでなく、絵や図に表すことも含めて、発達段階に合わせたものを考えられるようになった。

(2) 教職員のあらゆる人権問題への認識を深める取組

研修会での指導案作成において、同和問題そのものの歴史について話す必要があったり、指導する単元をどこに設定するかであったり、授業展開を考える前の段階で勉強しておかないといけないことの多さに気付かされる場面があった。学校長からのレクチャーや、市内の資料館への見学を通して指導案を作成することができた。

5. 実践事例の実績、実施による効果

(1) 思いや考えを伝えるための支援の工夫

学習で思ったことや考えたことをトゥールミンモデルに書くことによって、挙手することや発言することを苦手としている児童も、自信をもって発表する姿や発表しようとする姿が見られるようになった。また、ホワイトボードを活用することで、一方的に自分の思いを話すだけでなく、意見の交流もできるようになってきている。

(2) 教職員のあらゆる人権問題への認識を深める取組



指導案作成や授業研究、資料館の見学などを通して、研鑽を深めることができた。また、6年社会科の歴史学習における同和問題にかかわる単元の指導について、学習内容のまとめを壁面掲示しておくことの有効性を確認することもできた。

(3) 生徒指導と連動した人権感覚向上の取組

各学年ともに設定された目標に対して、とても前向きな姿勢を見せて取り組んでいる。成果物を教室に掲示して活動の足跡を残すようにしている。

6. 実践事例についての評価

(1) 思いや考えを伝えるための支援の工夫

話すことに関しては項目5で記述したように、概ね評価ができる。今後の課題としては、相手意識を高めて話を聴くことや、「合意形成」に向けて互いに譲る部分をいかに伝えていくかということが挙げられる。

(2) 教職員のあらゆる人権問題への認識を深める取組

夏季の研修や授業研究のほかにも、毎月行っているハートフル学習(人権学習の名称)で、いじめに関する問題や命に関する問題、男女平等教育や外国人教育などの学習に取り組んでいる。

今後は、より人権問題への認識を深められるように、フィールドワークを研修に取り入れたり、外部講師を招いての研修を実施したりしたい。また、ハートフル学習をより系統立てたものにできるように、内容を検討したい。

(3) 生徒指導と連動した人権感覚向上の取組

各学年の取組とも、子供たちが意欲的に取り組んでいることは評価できる。課題は、初めの意欲や実践の様子をいかに継続していくかということが挙げられる。子供たちが興味を持ち、さらに人権感覚の向上に効果的な活動を工夫する必要がある。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

京都市立朱雀第四小学校

本校の教育目標である「愛する心」に焦点を当て、相手を意識し、その上で意見を持ち、自己解決する人権感覚育成を具体化している。日々の授業で論理的思考（「トゥールミンモデル」の実践）を重視し、調査や学びの事実理由を付して自己主張する話し合いを追究している。また、児童の学習環境の充実のために教職員の人権感覚と授業力の向上、児童相互の人権感覚と実践力を養うために生徒指導の取組の充実に努めている。

特に道徳や総合学習・人権学習で、児童の論理的思考力を高めること、発達課題や学級の実情に配慮した授業構成を行うこと、自信のある発言力を引き出すことを重視している。教師の工夫によるワークシートやノート指導、思考を絵や図にする体験、意見をまとめて伝える力量形成などの具体例に学びたい。その背景に、教職員の夏季研修や授業研究、月例ハートフル学習（いじめや命の問題、男女平等や外国人の教育など）の成果が作用している。